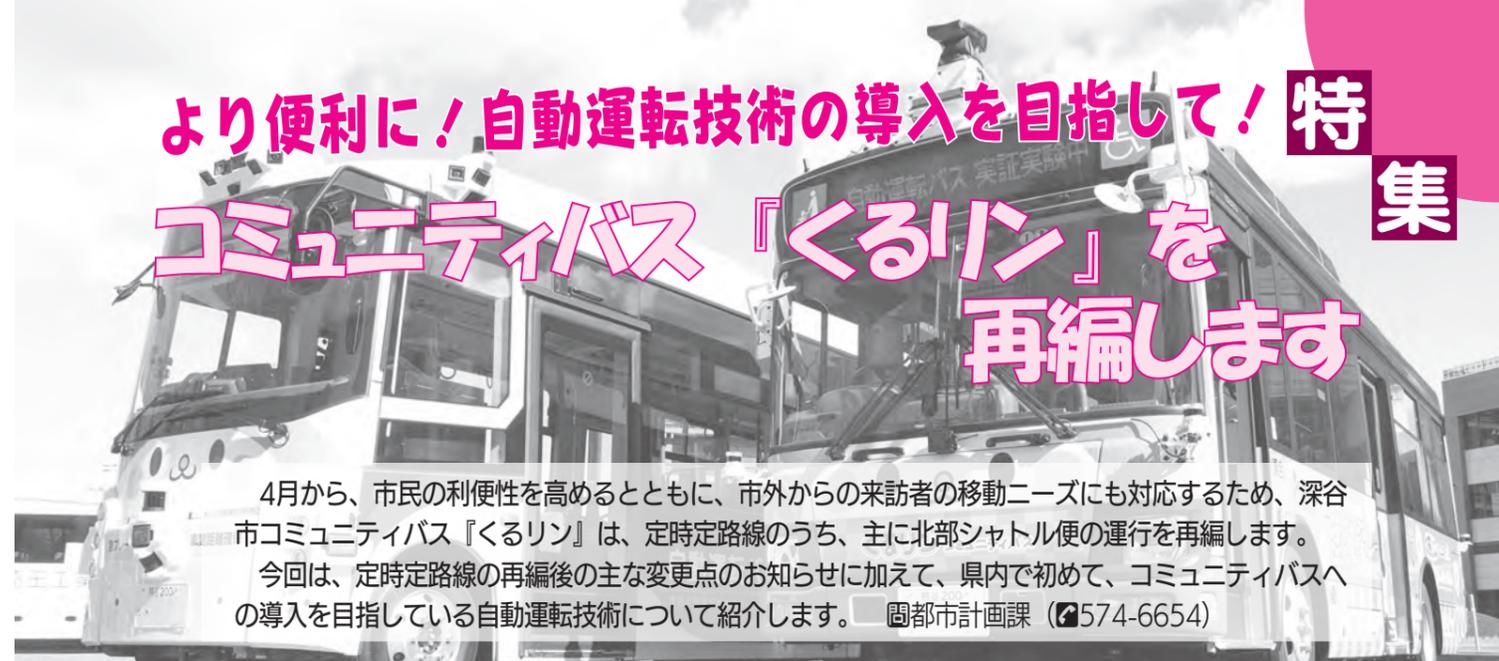


# より便利に！自動運転技術の導入を目指して！ コミュニティバス『くるりん』を再編します



4月から、市民の利便性を高めるとともに、市外からの来訪者の移動ニーズにも対応するため、深谷市コミュニティバス『くるりん』は、定時定路線のうち、主に北部シャトル便の運行を再編します。今回は、定時定路線の再編後の主な変更点のお知らせに加えて、県内で初めて、コミュニティバスへの導入を目指している自動運転技術について紹介します。 圏都市計画課 ☎574-6654

『くるりん』を便利に再編！

市民の重要な移動手段

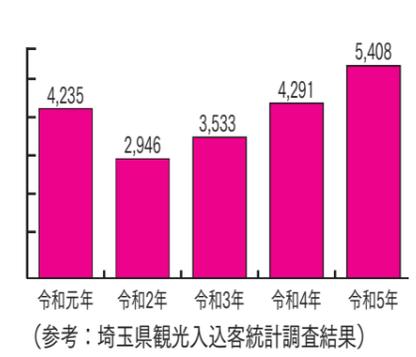
深谷市「ミニコミュニティバス」の「くるりん」は、通院や買い物、通勤・通学など、市内を移動するための主要な交通手段として利用されています。特に高齢者などの、交通手段を持たないかたにとっては、日常生活の移動に欠かせない重要な役割を担っています。

利用者のニーズに合わせて、使いやすい定時定路線を再編

『くるりん』は、現在、『北部シャトル便』、『東部シャトル便』、『西部シャトル便』、『南部シャトル便』の4路線の定時定路線と、事前に日時と場所を予約して利用するデマンドバスを運行しています。

中でも、北部シャトル便は、4路線で最も利用者が少ない状況です。北部地域には、渋沢栄一記念館をはじめとする観光施設が多々点在しているにもかかわらず、現在、公共交通を利用しこれらを周遊することは難しくなっています。しかし、令和2年に新型コロナウイルス感染症の影響で減少した

深谷市への観光客数の推移（単位：千人）



観光客数は、大河ドラマ「青天を衝け」の放送などを契機に、増加傾向にあり（右記）深谷市への観光客数の推移。参照、令和6年7月の新紙幣発行により、今後さらに増加することが予想されます。

そのため、通院や買い物、通勤・通学など、市民の日常生活を支えるとともに、市外から訪れるかたの渋沢栄一関連施設などへの観光需要にも対応するため、市内の公共交通の状況を踏まえ、令和6年11月に『深谷市ミニコミュニティバス』『くるりん』（定時定路線）再編計画』を策定しました。この計画を基に、4月かじり『くるりん』定時定路線の北部シャトル便を先行して再編します。

## 変更その1 北部シャトル便に『周遊便』が登場します

北部エリアでは、日常生活の足としての利用だけでなく、市外から観光で訪れたかたにも利用しやすいよう、シャトル便と周遊便を組み合わせた運行ルートになります。

### CHECK! シャトル便 通勤・通学に!

通勤・通学需要に対応するシャトル便を午前6時30分～9時30分と午後1時30分～7時30分の時間帯に16便運行します。

シャトル便ルート①  
JR 深谷駅北口  
⇕  
旧渋沢邸『中の家』



▲シャトル便の運行ルート①

シャトル便ルート②  
JR 深谷駅北口  
⇕  
深谷大里看護専門学校

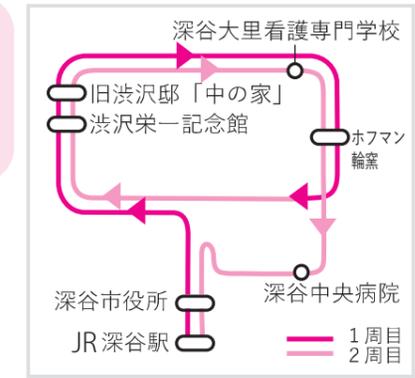


▲シャトル便の運行ルート②

### CHECK! NEW 周遊便 観光に!

観光需要に対応するため、市内の観光拠点を一巡する周遊便を午前9時30分～午後1時30分の時間帯に2便運行します。※1便あたり2周します。

周遊便ルート  
起終点  
JR 深谷駅北口



▲周遊イメージ



▲周遊便の運行ルート



▲新デザインの『くるりん』（北部シャトル便+周遊便）

## 令和7年4月からの定時定路線再編のポイント!

	北部シャトル便 ⇒北部シャトル+周遊便	東部・西部・南部 シャトル便
運行ルート	見直し・再編 (詳しくは3ページ)	現行通り
運行時間帯・便数		
車両デザイン	新デザイン	
運賃	1回乗車=200円 (詳しくは4ページ)	

通勤・通学や観光に！  
北部シャトル便に周遊便を組み合わせ！

より分かりやすく！  
運賃体系を見直し！

県内初！  
自動運転技術の導入を目指します！

## 自動運転 EV バスの実証運行で自動運転を体験!

2月10～12日にかけて、自動運転EVバスの試乗会が行われ、自動運転レベル2で市内の公道（JR深谷駅南口～上柴地区内）を実証運行しました。

このバスは、国内で自動運転レベル4の運行認可の取得実績のある、最先端の車両です。物体認識用のカメラ19台と周辺の状況を把握するためのレーザースキャナーである『ライダー』9台を駆使し、自動運転を行っています。※今回実証運行を行った自動運転EVバスは、『くるりん』（北部シャトル+周遊便）に導入予定の車両ではなく、実験車両であり、自動運転レベル4実現を目指しこれからも実証運行を重ねていきます。

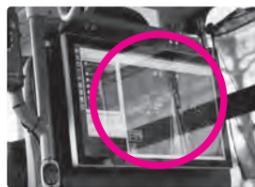


▲実証運行を行った自動運転EVバス

## 自動運転バスにいざ試乗!



▲運転手がタッチパネルを操作することで自動運転に切り替わります



◀運転席後部のモニターで、現在走っている進路や軌跡、人や建物などをセンサーで感知していることがわかります。



▶自動運転中は、運転手がハンドルから手を離れた状態で走行します。

### 実際に乗ってみて

自動運転時の乗り心地は手動運転とほとんど変わらず、快適で、ハンドルがひとりだけで動く様子はなんだか不思議な感覚でした。

広報担当



### 変更その2 運賃を一律にします

定時定路線の運賃を、乗車距離に応じた金額設定から、乗車距離に関わらず1回の乗車に対して一律の金額設定に変更します。※障害者割引など、各種割引制度は現行通りです。

現行	改正後
2km未満 = 100円	1回乗車 = 200円
2km以上 = 200円	

**CHECK!** 1日乗車券を導入します。  
1日乗車券の価格は500円で、1日に3回以上乗車するかたはお得です。  
※1日乗車券はバス車内で購入できます。

### 変更その3 県内初! 自動運転技術の導入を目指します

自動運転技術の研究に取り組む埼玉工業大学などと連携し、北部シャトル便の周遊便ルートに、自動運転技術の導入を目指します。これは、県内のコミュニティバスでは初の取り組みです。※当面の間は運転手のいる自動運転レベル2での運行となります。

**CHECK!** 導入を目指す自動運転技術は、地元の埼玉工業大学が研究・開発した『地産地消』の技術です。また、車両は新たに、深谷らしさのあふれるデザインになっています。※北部シャトル+周遊便以外の3路線は現行のデザインです。



Interview 「深谷自動運転実装コンソーシアム」で中心メンバーとして活動している埼玉工業大学の渡部副学長に聞きました

自動運転技術でより多くの方がより安全に移動できる環境を提供し、みんなが笑顔でいられる社会を目指しています。

### ■『くるりん（定時定路線）』に自動運転技術が導入されることを、どのように感じていますか?

皆さんの温かいご支援の下、一歩一歩ではありますが、社会実装へ着実に近づいていると感じており、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、できるだけ早く皆さんが自動運転の利便性を享受できるように、引き続き努力していきます。

### ■自動運転の持つ可能性はどのようなものですか?

自動運転が提供できる最大のメリットは、より多くの人に『移動の自由』をもたらすことです。そして、人為的なミスによる事故の削減に寄与することで、より多くのかたが、長い時間笑顔でいられる社会づくりに貢献すると考えています。また、このように成長を続ける産業の中心で、研究を行った学生たちが将来、全国各地で活躍し、いずれは深谷に戻ってきて地元の産業を豊かにする、そうした好循環を生み出す一助として、令和7年度自動運転専攻が大きな役割を果たすと期待しています。

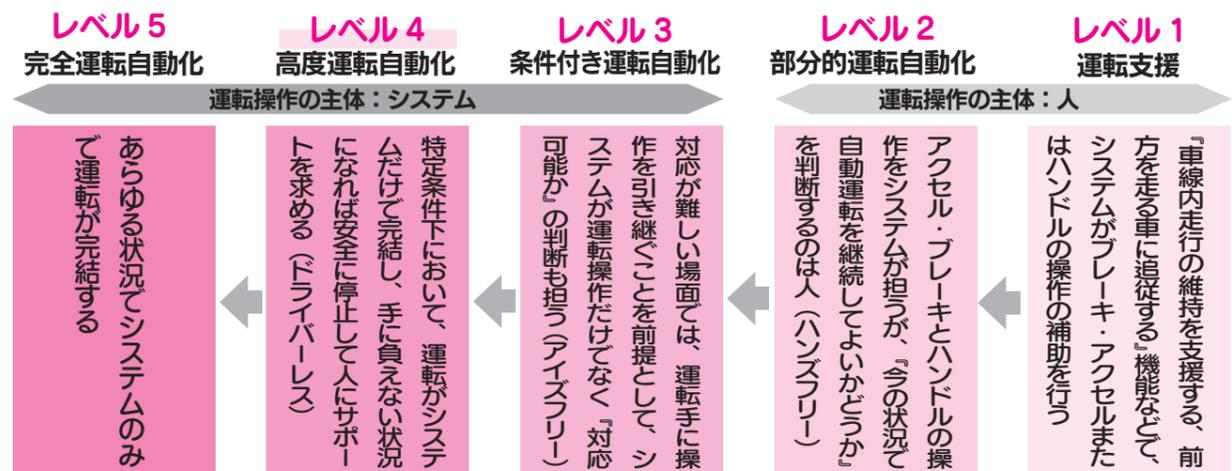
※埼玉工業大学は令和7年4月に工学部情報システム学科へ、国内初となる自動運転専攻を開設します。



埼玉工業大学 副学長  
自動運転技術開発センター センター長 渡部大志さん

自動運転技術で交通課題を解決!  
自動運転レベル4実現に向けた深谷市の取り組み

公共交通は、多くのかたが利用しやすい運行をすることはもちろん、運転手不足も課題となっています。市では運転手不足などの交通課題を自動運転技術で解決するため、令和5年6月に、自動運転技術の専門事業者の7者（埼玉工業大学、A-Drive(株)、アイサンテクノロジ(株)、損害保険ジャパン(株)、KDDI(株)、ティアフォー、深谷観光バス(株)）と「深谷自動運転実装コンソーシアム（共同事業体）」を立ち上げました。自動運転は、機能に応じてレベル分けされています（下図「自動運転の機能によるレベル分け」参照）。深谷自動運転実装コンソーシアムは、県内で唯一、国庫補助金「自動運転社会実装推進事業」に、2年連続で採択され、運転手が車内にいない状態でも運行可能な『自動運転レベル4』実現に向けた取り組みを行っています。



▲自動運転の機能によるレベル分け（参考：国土交通省『自動運転車の安全技術ガイドライン』、『自動運転のレベル分けについて』）